

**令和6年度
空飛ぶクルマ社会実装検討事業・事業環境整備調査委託業務**

【報告書サマリ】

令和7年3月31日

1. 本業務の背景・目的
2. 本事業の結果

▶ 1. 本業務の背景・目的

2. 本事業の結果

本業務は有望ルートやVポート候補地、事業モデルの検討等を通じ、ビジネスの担い手が山梨県内での空飛ぶクルマに係るビジネスを展開しやすいよう機運醸成に繋げることが目的と認識

本業務の背景と目的

本業務の背景（山梨県の空飛ぶクルマに係るこれまでの取組等）

- 山梨県は、2025年大阪・関西万博での実用化に向けた検討が進む空飛ぶクルマに関して、過疎地域の交通や救急医療、災害救助等の地域課題の解決や、観光レジャー等の新たなビジネス創出等を期待し、県内での社会実装に向けた検討を進めている
- 上記背景も念頭に、昨年度（令和5年度）において空飛ぶクルマの社会実装に向けた山梨県の目指す姿を示す将来ビジョン『山梨県における「空の移動革命」の実現に向けて』（以下「将来ビジョン」という。）を作成する等、山梨県での空の移動革命に向けた道筋を示した
- 重ねて将来ビジョンを示したコンセプトムービー、パンフレットを制作すると共に、イベント・セミナー（「やまなし空のモビリティフェス」等）の開催等を通じ、山梨県内自治体や事業者等の理解促進・機運醸成に繋げるべく各種施策を実施している

将来ビジョン



パンフレット等



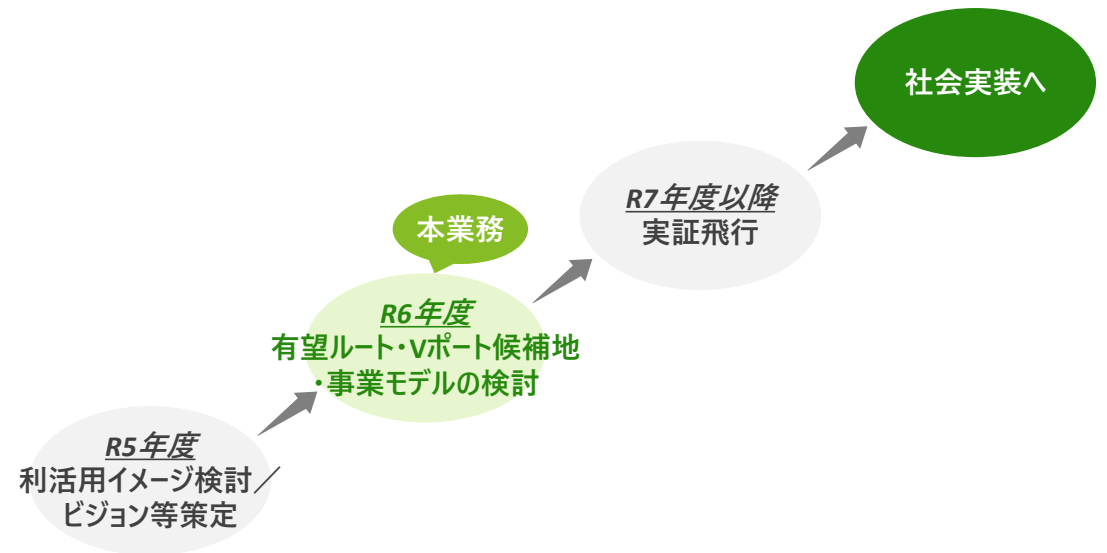
山梨県での空の移動革命に向けた道筋
（＝進むべき方向性）が明確になった状態



次年度以降の山梨県での空飛ぶクルマに係るビジネス・事業の創造に向けて
具体的に取り組むべき事項（実証飛行の推進・事業環境整備等）を明確にする

本業務の位置づけと目的

- 有望ルートやVポート候補地、事業モデルの検討等を通じ、ビジネスの担い手が山梨県内での空飛ぶクルマに係るビジネスを展開しやすいよう機運醸成に繋げる



1. 本業務の背景・目的

▶ 2. 本事業の結果

2. 本事業の結果

▶ 2.1 有望ルート

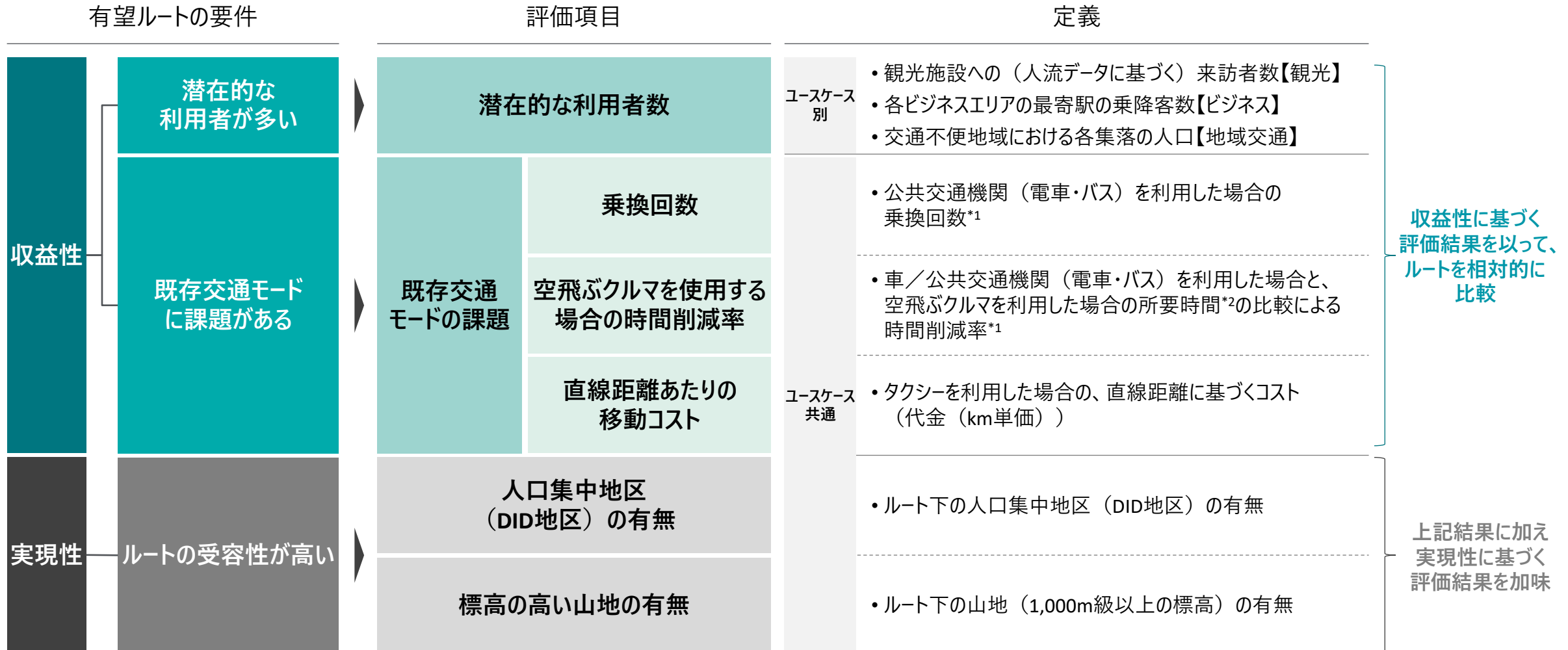
2.2 空飛ぶクルマを活用した事業モデル

2.3 令和7年度、令和8年度実証飛行の実施方針

2.4 空の移動革命・社会実装推進ネットワークの企画・運営

収益性に基づく評価項目を基本として比較し、実現性に基づく評価項目を加味する形で山梨県における空飛ぶクルマの有望ルートの評価・抽出を実施

< 有望ルートの評価・抽出 > 有望ルート評価・抽出に際しての評価項目



*1：10:00/14:00/17:00を出発時間とする最適経路における平均値を採用

*2：空飛ぶクルマを利用した移動の所要時間は、時速80kmで飛行し、離着陸に8分を要すると仮定し、算出

山梨県における有望ルートイメージ

【凡例】

既存交通
の移動時間

空クルの
移動時間

甲府市内及び
その周辺エリア

59分 ▶ 28分

御坂山地

富士北麓エリア

出典・データソース：国土地理院. <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>、山梨県公式HP. <https://www.pref.yamanashi.jp/miryoku/fujisan/index.html> 他（参照2025年1月16日）

令和7年度の検証対象とするルートを掲載

2. 本事業の結果

2.1 有望ルート

▶ 2.2 空飛ぶクルマを活用した事業モデル

2.3 令和7年度、令和8年度実証飛行の実施方針

2.4 空の移動革命・社会実装推進ネットワークの企画・運営

活用初期の観光遊覧、拡大期のリニア×二地点間飛行、成熟期の地域交通を対象ユースケースとして選定

山梨県における空飛ぶクルマ利活用の世界観／事業モデル検討に際しての前提

 事業モデル作成対象ユースケース

			活用初期（リニア開通前）	拡大期（リニア開通後）	成熟期（リニア開通後）
前提条件	時期	年代	2020年代後半	2030年代	2040年代
		段階	ConOpsフェーズ1相当	ConOpsフェーズ2相当	ConOpsフェーズ3相当
	運航	飛行エリア	県内の限られたエリア	県内の複数のエリア	県内外含めた多数のエリア
		頻度	低密度	中～高密度	高密度
		想定ユーザー層	サービスにコストを掛けられる層（一部観光客等）	移動にコストを掛けられる層（一部観光客等） ／新たなサービスへの感度が高い層*1等	一般的な県内外の住民
	機体	利用機体	パイロット操縦・有人操縦	パイロット操縦・有人操縦・遠隔操縦	自律制御・自動操縦
ユースケース・サービス (有望ルート調査に基づく)			観光遊覧（富士北麓エリアの遊覧）	観光遊覧（富士北麓エリアの遊覧）	観光遊覧（富士北麓エリアの遊覧）
				リニア×二地点間飛行（甲府-富士北麓間）	リニア×二地点間飛行（甲府-富士北麓間）
					地域交通

以降、各ユースケース×実現時期ごとに「サービス概要」・「ビジネスモデルキャンバス」・「ステークホルダー関係図」を作成

*1:イノベーター理論におけるイノベーター層、アーリーアダプター層等を想定

各アウトプットの作成に際しては、サービス概要・コンセプト、及びビジネスモデルキャンバスを 想定ユースケース・サービス毎に、ステークホルダー関係図をユースケース・サービス横断的に作成

各アウトプットの概要・作成方針

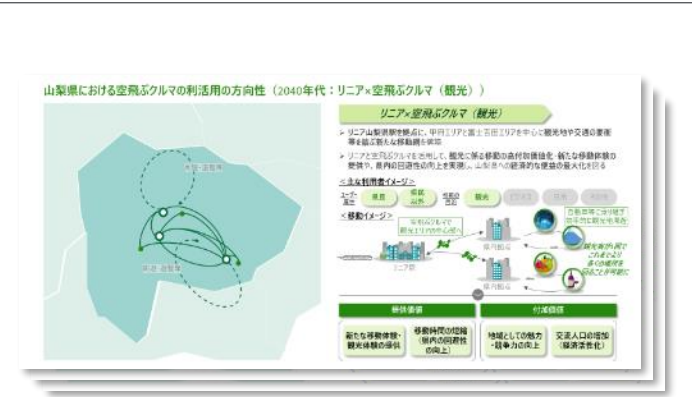
サービス概要・コンセプト

ビジネスモデルキャンバス

ステークホルダー関係図

アウトプット
イメージ

概要・
作成方針

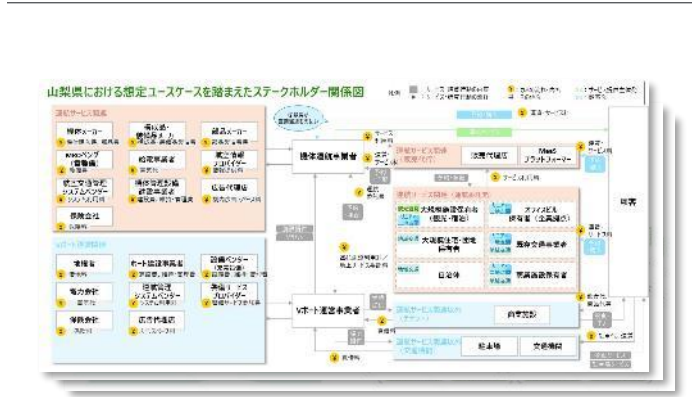


山梨県にて想定される有望ユースケース・サービスを
内容、想定ユーザー、提供価値等の観点から概要として
整理し、更に上記点を踏まえ、
利用者像・利用者イメージを具体化したもの

想定ユースケース・サービス別に作成



ビジネスモデルキャンバスのフレームワークに従い、
ビジネスモデルの構成要素をコスト関連要素
／収益関連要素に含まれる9つの構成要素から
具体化したもの



当該サービスを提供するに際して、関連する事業領域を
サービス・金の流れに基づき、運航事業者を中心に整理
したもの（併せて、各事業領域において県内の事業者
の参入余地の検討を実施）

想定ユースケース・サービス横断的に作成

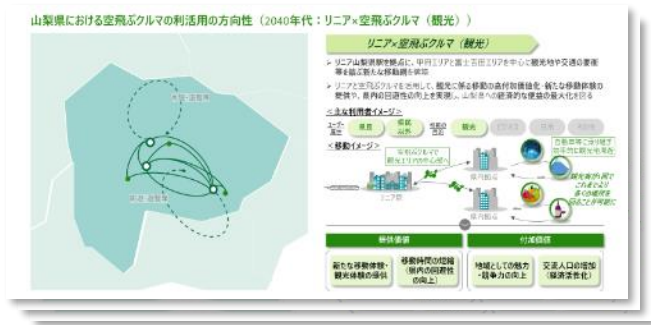
各アウトプットの概要・作成方針

サービス概要・コンセプト

ビジネスモデルキャンバス

ステークホルダー関係図

アウトプット
イメージ



山梨県にて想定される有望ユースケース・サービスを
内容、想定ユーザー、提供価値等の観点から概要として
整理し、更に上記点を踏まえ、
利用者像・利用者イメージを具体化したもの

想定ユースケース・サービス別に作成

事業モデルの可視化：ビジネスモデルキャンパス（収益関連要素）

項目	参考資料	研究内容(研究計画)			
		①調査項目・調査方法	②調査対象(調査対象者)	③調査期間(調査時期)	④期待される成果(成果の活用)
研究課題	①研究課題の背景	②研究の目的・意義、研究の目的・意義	③研究の目的・意義(予定)	④研究の目的・意義(予定)	
研究の意義	⑤研究の意義・価値	⑥研究の意義・価値(予定)	⑦研究の意義・価値(予定)	⑧研究の意義・価値(予定)	
研究の計画	⑨研究の計画・スケジュール	⑩研究の計画・スケジュール(予定)	⑪研究の計画・スケジュール(予定)	⑫研究の計画・スケジュール(予定)	
研究の進捗	⑬研究の進捗・成果	⑭研究の進捗・成果(予定)	⑮研究の進捗・成果(予定)	⑯研究の進捗・成果(予定)	
研究の成果	⑰研究の成果・活用	⑱研究の成果・活用(予定)	⑲研究の成果・活用(予定)	⑳研究の成果・活用(予定)	
研究の総括	㉑研究の総括・評価	㉒研究の総括・評価(予定)	㉓研究の総括・評価(予定)	㉔研究の総括・評価(予定)	

ビジネスモデルキャンバスのフレームワークに従い、
ビジネスモデルの構成要素をコスト関連要素
／収益関連要素に含まれる9つの構成要素から
具体化したもの

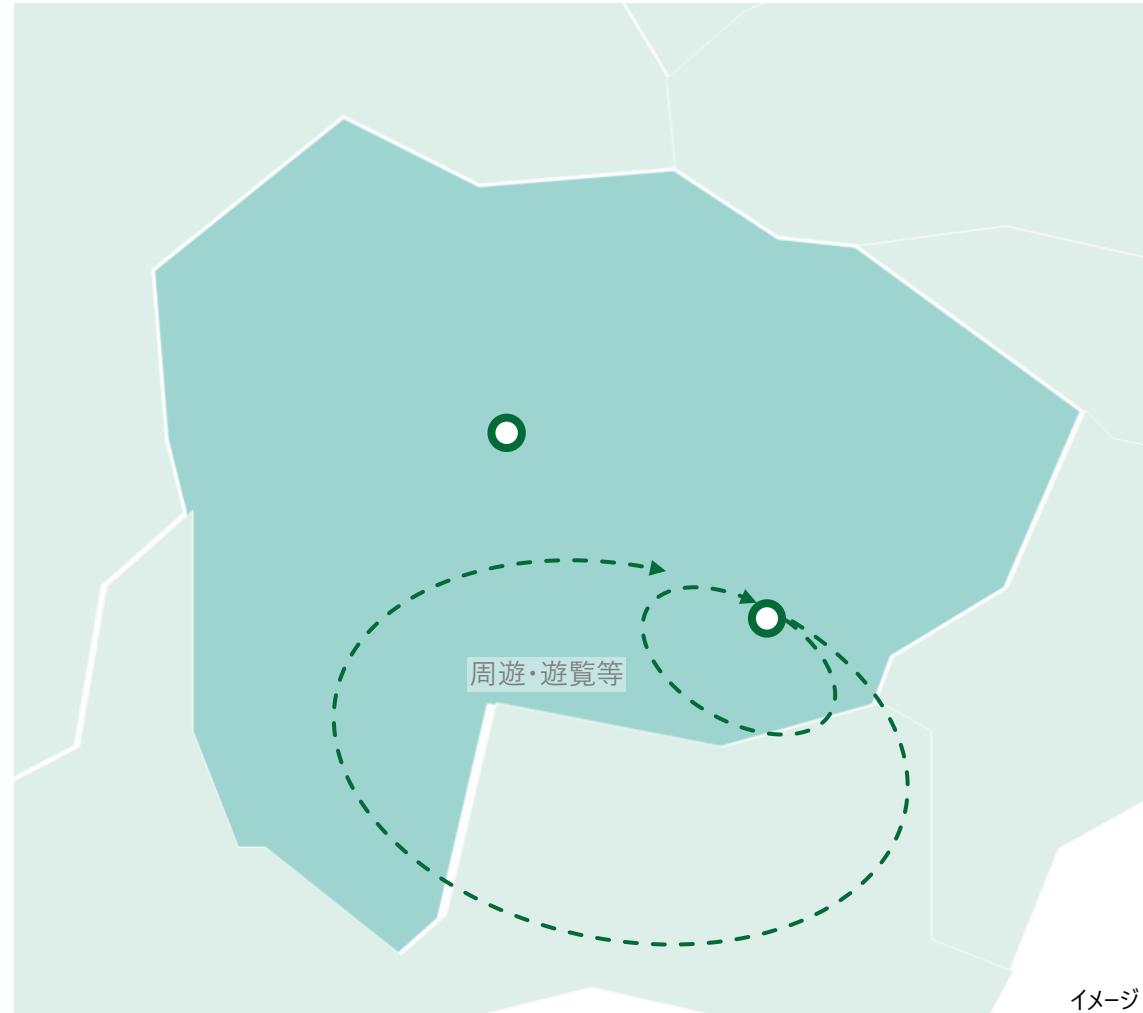
想定ユースケース・サービス横断的に作成



当該サービスを提供するに際して、関連する事業領域をサービス・金の流れに基づき、運航事業者を中心に整理したもの（併せて、各事業領域において県内の事業者の参入余地の検討を実施）

活用初期のサービス概要として、富士北麓（富士山駅・河口湖駅）周辺エリアにおいて、観光客向けに、富士北麓エリアの観光遊覧を実施する想定

空飛ぶクルマの活用初期におけるサービス概要（観光遊覧）



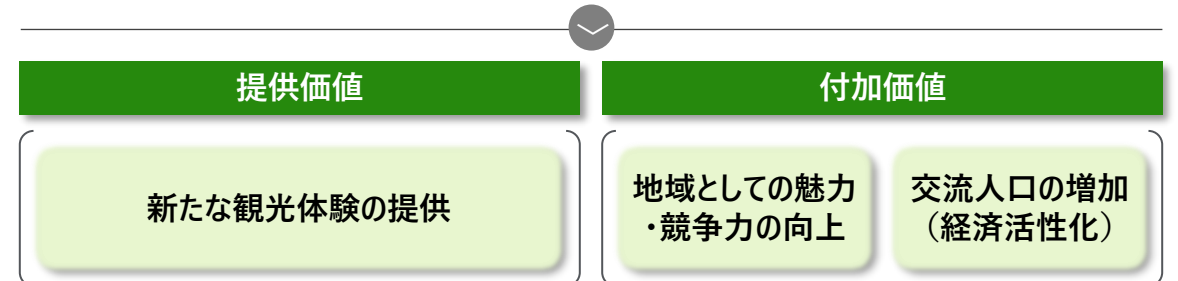
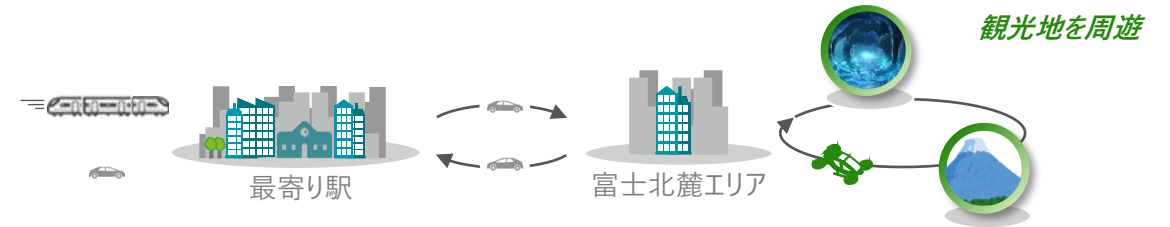
空飛ぶクルマ（観光遊覧）

- 有望ルートとして想定される富士北麓エリアにて観光遊覧を実施
- 新たな移動体験を提供し、山梨県への経済的な便益の最大化を図る

<主な利用者イメージ>

- 観光に一定以上のコストをかけることができる層
 - ・ ユーザー属性：県外・海外からの観光客 等
 - ・ 目的：観光

<移動イメージ>



活用初期の空飛ぶクルマ（観光遊覧）においては、山梨県へ訪れたインバウンド客等が、県内の観光地を遊覧する際に利活用する世界観を想定

「空飛ぶクルマ（観光遊覧）」における利用者像・利用者イメージ

サービス概要

空飛ぶクルマ（観光遊覧）

- 有望ルートとして想定される富士北麓エリアにて観光遊覧を実施
- 新たな移動体験を提供し、山梨県への経済的な便益の最大化を図る

提供価値

新たな観光体験の提供

付加価値

地域としての魅力・競争力の向上

交流人口の増加
(経済活性化)

利用者像・利用イメージ例

インバウンド客の観光遊覧

< 想定サービス利用者像（例） >

- ・ユーザー像 : 山梨観光に訪れたインバウンド客
- ・利用目的 : 最大限観光を楽しむために利用



せっかくの日本だから空から
観光地を眺めてみたいな・・・！

< 移動シーンの全体像（イメージ） >



県外からの来訪者の観光遊覧

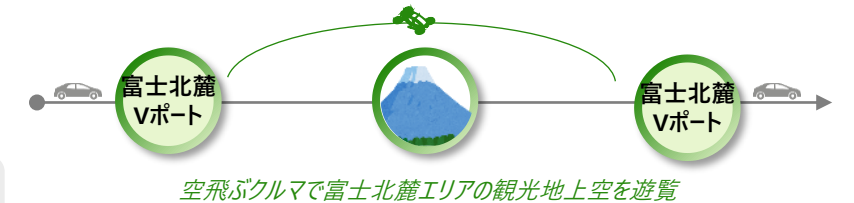
< 想定サービス利用者像（例） >

- ・ユーザー像 : マイカーで山梨県観光に訪れた家族連れ
- ・利用目的 : 空から山梨の雄大な自然を楽しむために利用



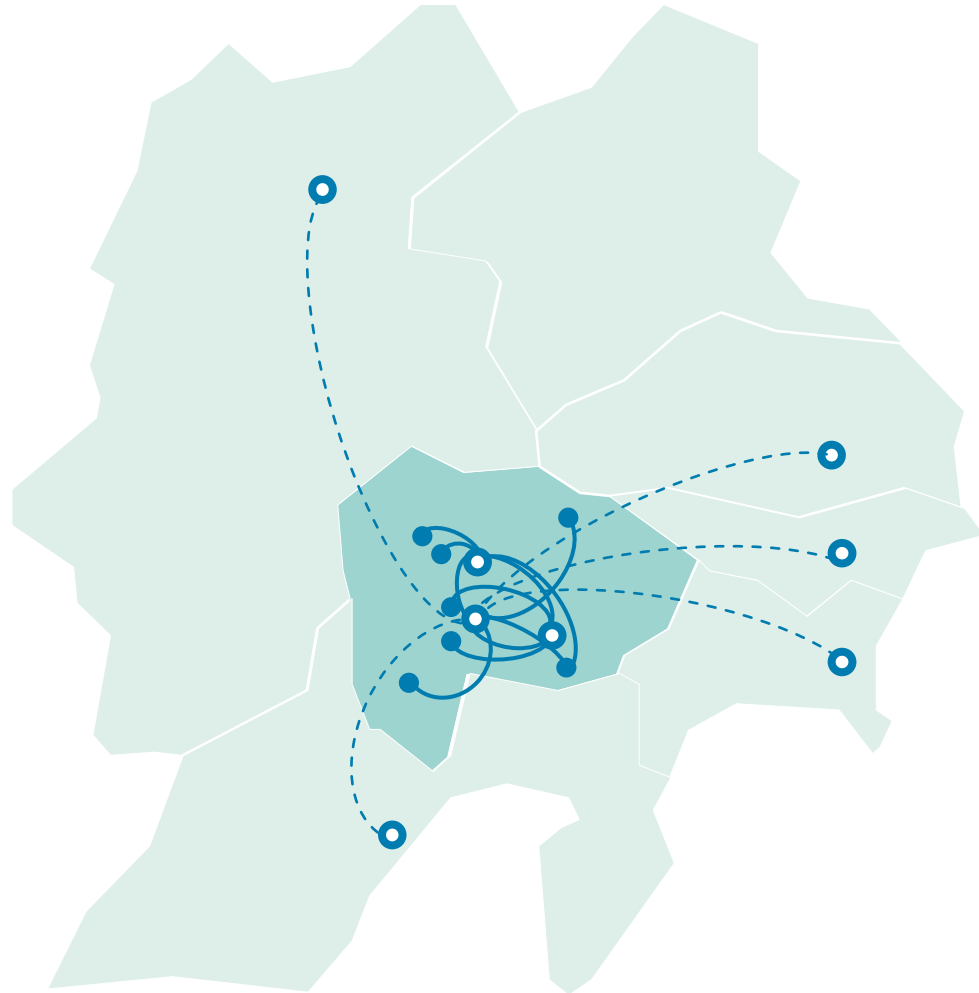
富士山や河口湖を上空から
家族だけのプライベート空間で眺めたいな・・・！

< 移動シーンの全体像（イメージ） >



成熟期のサービス概要として、リニア山梨駅周辺を拠点に、観光、ビジネス、及び日常利用を目的に、既存の交通網を利用しているすべての層向けに、二地点間飛行を実施する想定

空飛ぶクルマの成熟期におけるサービス概要（二地点間飛行）



イメージ

リニア×空飛ぶクルマ（二地点間飛行）

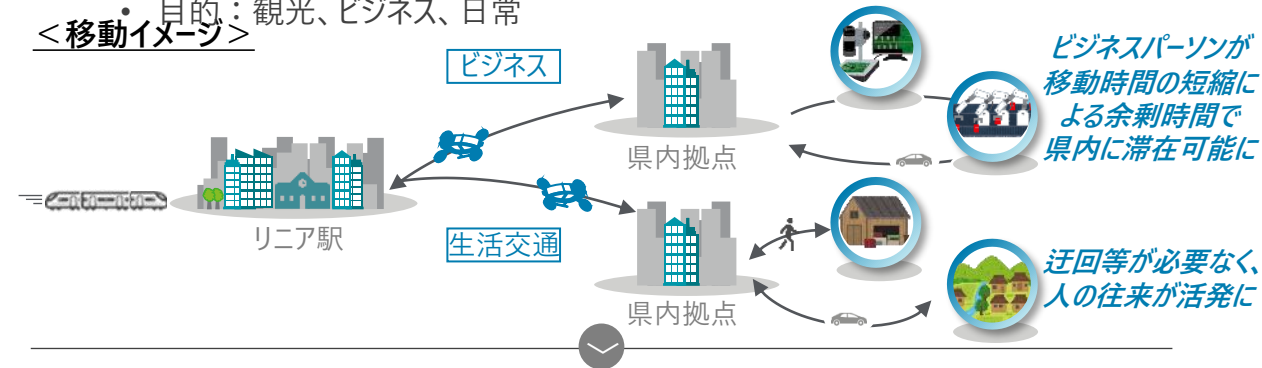
- リニア山梨県駅周辺を拠点に、観光、ビジネス、日常利用を目的として、富士北麓エリア等を中心に県内外エリアの交通の要衝等を結ぶ新たな移動網を構築
- リニアと空飛ぶクルマを活用して、県内の回遊性の向上を実現し、また、交通空白地帯等を解消することで、山梨県への経済的な便益の最大化や地域の魅力向上を図る

<主な利用者イメージ>

- 移動にコストを掛けられる層（一部観光客等）／新たなサービスへの感度が高い層（拡大期）
- 来県者・県民問わず幅広い層（成熟期）

- ・ ユーザー属性：県内の住民、県内外の観光客、ビジネスパーソン 等

<移動イメージ>



提供価値

新たな移動体験・
観光体験の提供・
交通空白地の解消

移動時間の短縮
(県内の回遊性
の向上)

付加価値

地域としての魅力
・競争力の向上

交流人口の増加
(経済活性化)

成熟期の空飛ぶクルマ（二地点間飛行）においては、観光客やビジネスパーソンだけでなく、県内の住民等、日常的に空飛ぶクルマを活用する世界観を想定

「リニア×空飛ぶクルマ（二地点間飛行）」における利用者像・利用者イメージ

サービス概要

リニア×空飛ぶクルマ（二地点間飛行）

- リニア山梨県駅周辺を拠点に、観光、ビジネス、日常利用を目的として、富士北麓エリア等を中心に県内外エリアの交通の要衝等を結ぶ新たな移動網を構築
- リニアと空飛ぶクルマを活用して、県内の回遊性の向上を実現し、また、交通空白地帯等を解消することで、山梨県への経済的な便益の最大化や地域の魅力向上を図る

提供価値

新たな移動体験・観光体験の提供

移動時間の短縮
(県内の回遊性の向上)

付加価値

地域としての魅力・競争力の向上

交流人口の増加
(経済活性化)

利用者像・利用イメージ例

県外からの来訪者（ビジネスパーソン）のビジネスエリアへの移動

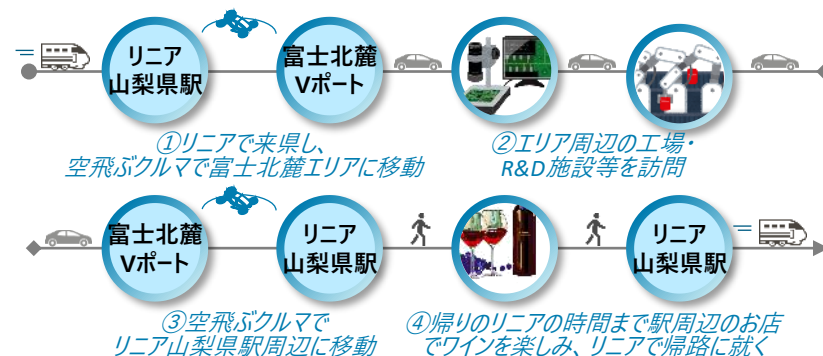
< 想定サービス利用者像（例） >

- ・ユーザー像 : 出張で山梨県に訪れた県外の会社役員
- ・利用目的 : リニア駅から訪問先へ向かうために利用



こんなに移動がスムーズだったら、空いた時間でちょっとだけワインでも楽しんじゃおうかな・・・！

< 移動シーンの全体像（イメージ） >



交通空白地帯に実家を持つ大学生の移動

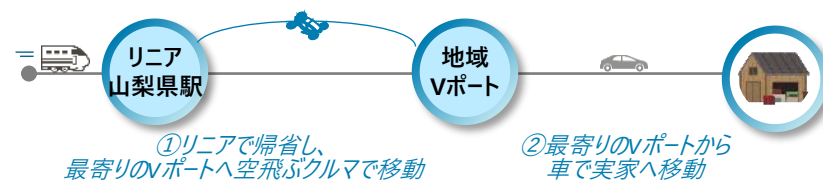
< 想定サービス利用者像（例） >

- ・ユーザー像 : 都内に上京している大学生
- ・利用目的 : 実家へ帰省するために利用



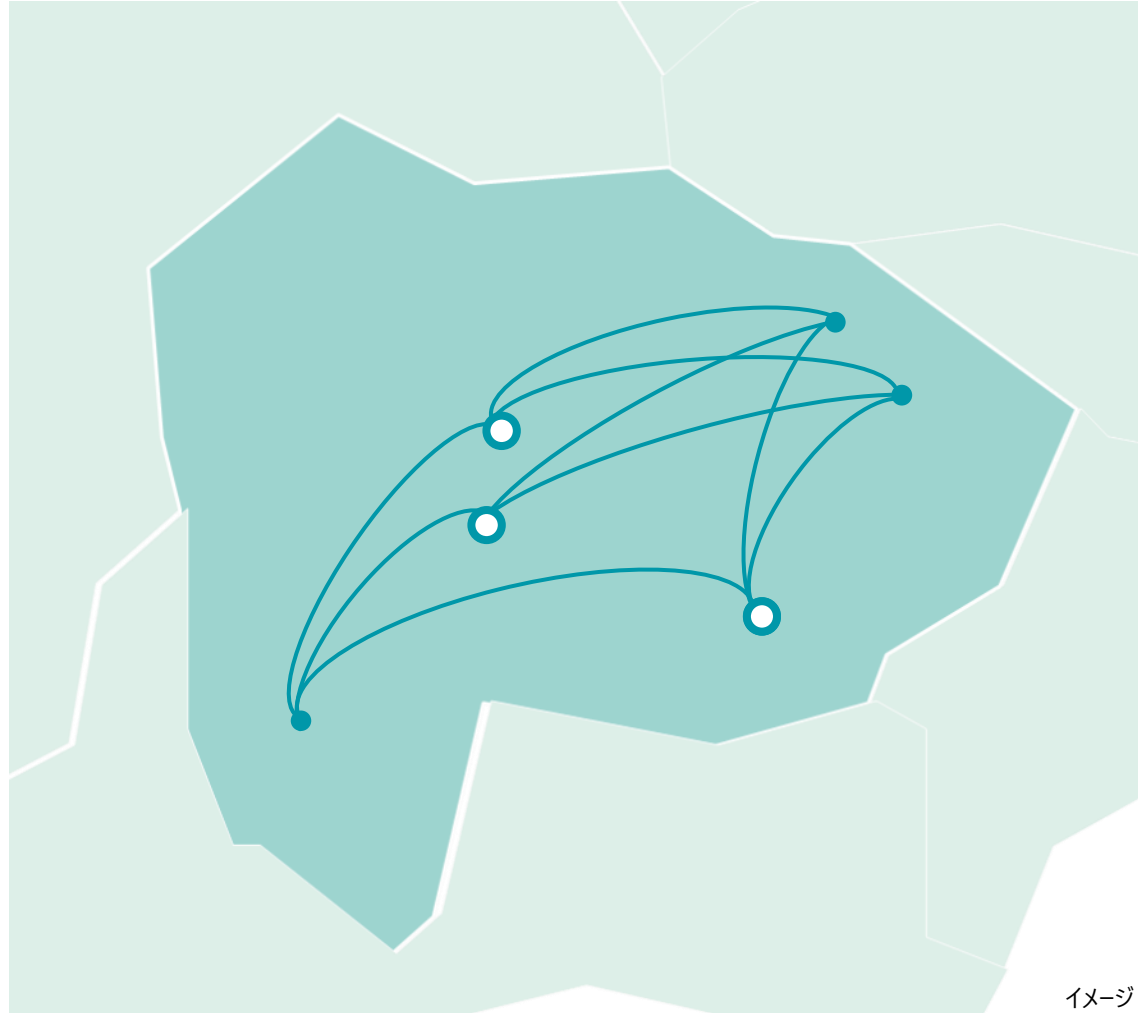
電車やバスが無かった実家にも、こんなにすぐ帰れるなら、もっと頻繁に帰ろうかな・・・！

< 移動シーンの全体像（イメージ） >



県内の中心地、及び県内各地を結ぶ移動の足（地域交通）としての活用を地域交通分野での中長期的な活用の方向性として想定

山梨県における空飛ぶクルマの利活用の方向性（地域交通）



イメージ

空飛ぶクルマ（地域交通）

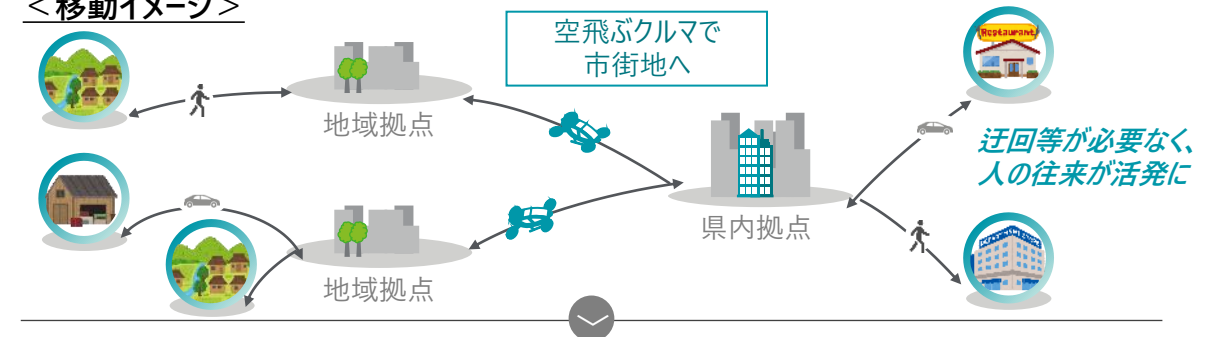
- 交通手段の少ない市町村と、県内エリア（峡南エリア等）の交通の要衝等を結ぶ新たな移動網を構築
- 県内の交通空白地帯等を解消することにより、地域としての魅力・競争力の向上を図る

<主な利用者イメージ>

- 特に日常生活における移動手段が充実しないエリア等の在住者

- ・ ユーザー属性：県内の住民
- ・ 目的：日常、その他

<移動イメージ>



提供価値

交通空白地帯の解消

付加価値

地域としての魅力
・競争力の向上

地域交通においては特に県内の郊外等に住む県民が、市街地等へ移動する等に際して利活用する世界観を想定

「地域交通」における利用者像・利用者イメージ

サービス概要

地域交通

- ▶ 県内の中心地（甲府エリアと富士北麓エリア等）と、県内エリア（峡南エリア等）の交通の要衝等を結ぶ新たな移動網を構築
- ▶ 県内の交通空白地帯等を解消することにより、地域としての魅力・競争力の向上を図る

提供価値

移動時間の短縮
(県内の回遊性の向上)

日常の移動・交通手段の確保

付加価値

地域としての魅力・競争力の向上

利用者像・利用イメージ例

県民の県内市街地への移動①

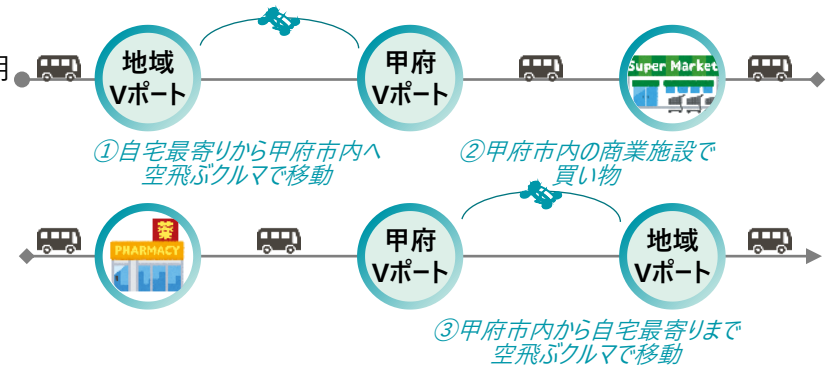
< 想定サービス利用者像（例） >

- ・ユーザー像 : 市内に買い物に行く県内の若者
- ・利用目的 : 自宅近辺から市街地の商業施設へ向かうために利用



車なくても移動が便利になったな・・・！
生活用品を買いにちょっと甲府まで・・・！

< 移動シーンの全体像（イメージ） >



県民の県内市街地への移動②

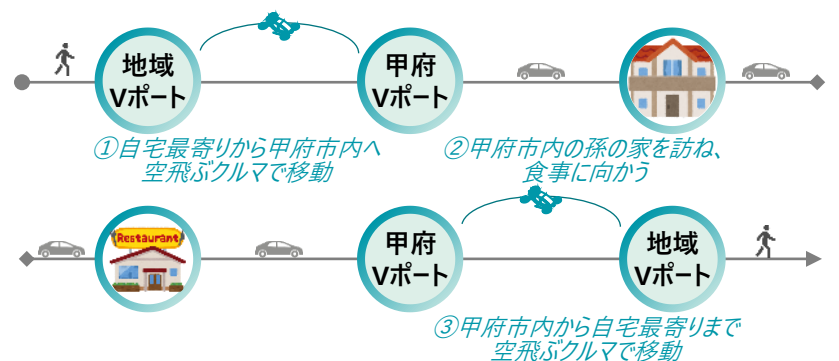
< 想定サービス利用者像（例） >

- ・ユーザー像 : 市内の孫に会いに行く県内の熟年夫婦
- ・利用目的 : 山間部にある自宅から、市街地に住む孫に会いに行くために利用



空飛ぶクルマなら時間もかからないし、
すぐに会いに行けるな・・・！

< 移動シーンの全体像（イメージ） >



サービス概要・コンセプト

ステークホルダー関係図

[illegible]

要素	セグメント	価値の創造 （カスタマー価値）（1）	価値の提供 （チャネル）（2）	価値の受け取り （支払い）（3）	価値の受け取り （支払い）（4）
収益 製品	収益製品	収益製品	収益製品（物理的） 収益製品（デジタル） 収益製品（サービス）	収益製品（物理的） 収益製品（デジタル）	収益製品（物理的） 収益製品（デジタル） 収益製品（サービス）
顧客 セグメント	顧客セグメント	顧客セグメント（物理的） 顧客セグメント（デジタル） 顧客セグメント（サービス）	顧客セグメント（物理的） 顧客セグメント（デジタル） 顧客セグメント（サービス）	顧客セグメント（物理的） 顧客セグメント（デジタル）	顧客セグメント（物理的） 顧客セグメント（デジタル） 顧客セグメント（サービス）
チャネル	チャネル	チャネル（物理的） チャネル（デジタル） チャネル（サービス）	チャネル（物理的） チャネル（デジタル） チャネル（サービス）	チャネル（物理的） チャネル（デジタル）	チャネル（物理的） チャネル（デジタル） チャネル（サービス）
関係 ネットワーク	関係ネットワーク	関係ネットワーク（物理的） 関係ネットワーク（デジタル） 関係ネットワーク（サービス）	関係ネットワーク（物理的） 関係ネットワーク（デジタル） 関係ネットワーク（サービス）	関係ネットワーク（物理的） 関係ネットワーク（デジタル）	関係ネットワーク（物理的） 関係ネットワーク（デジタル） 関係ネットワーク（サービス）
収益 モデル	収益モデル	収益モデル（物理的） 収益モデル（デジタル） 収益モデル（サービス）	収益モデル（物理的） 収益モデル（デジタル） 収益モデル（サービス）	収益モデル（物理的） 収益モデル（デジタル）	収益モデル（物理的） 収益モデル（デジタル） 収益モデル（サービス）



概要・作成方針

山梨県にて想定される有望ユースケース・サービスを
内容、想定ユーザー、提供価値等の観点から概要として
整理し、更に上記点を踏まえ、
利用者像・利用者イメージを具体化したもの

ビジネスモデルキャンバスのフレームワークに従い、
ビジネスモデルの構成要素をコスト関連要素
／収益関連要素に含まれる9つの構成要素から
具体化したもの

当該サービスを提供するに際して、関連する事業領域をサービス・金の流れに基づき、運航事業者を中心に整理したもの（併せて、各事業領域において県内の事業者の参入余地の検討を実施）

想定ユースケース・サービス別に作成

想定ユースケース・サービス横断的に作成

提供価値・顧客セグメント等はサービスによって異なるものの、サービスと顧客の接点は各サービス共通的であり、活用初期における遊覧をトリガーに他サービスへの展開等が可能と思料

事業モデルの可視化：ビジネスモデルキャンバス（収益関連要素）

要素	セグメント	リニア×2地点間移動			地域交通
		観光遊覧 （活用初期（2020年代後半））	（拡大期（2030年代））	（成熟期（2040年代））	
提供価値		新たな観光体験	新たな移動・観光体験／移動時間の短縮（回遊性向上）	移動時間の短縮（回遊性向上）	移動時間の短縮（回遊性向上）／日常の移動・交通手段の確保
顧客セグメント		サービスにコストを掛けられる層（一部観光客等）	移動にコストを掛けられる層（一部観光客等）／新たなサービスへの感度が高い層*1等	県民／観光客／ビジネス客	県民
チャネル		①利用者への直接販売／②旅行代理店を通じた委託販売			
顧客関係		①WebサイトやSNS等を活用した顧客コミュニティの構築／②旅行代理店ネットワークを通じた顧客コミュニティの構築			
収益手段	主たる収益	運賃収入／運航委託費			
	その他収益	乗客からの附帯料金（機内サービス）／広告スペース料			
		—	荷物預かり料金（規定重量・寸法以上の荷物を預かり、且つチャージ可能なケースにおいて）	荷物預かり料金（規定重量・寸法以上の荷物を預かり、且つチャージ可能なケースにおいて）	荷物預かり料金（規定重量・寸法以上の荷物を預かり、且つチャージ可能なケースにおいて）

*1:イノベーター理論におけるイノベーター層、アーリーアダプター層等を想定

コスト関連要素も同様に、各サービス共通的であり、1つのサービスを構築することで、県内における多様なサービスへの展開が可能と史料

事業モデルの可視化：ビジネスモデルキャンバス（コスト関連要素）

要素	セグメント		観光遊覧 （活用初期（2020年代後半））	リニア×2地点間移動 （拡大期（2030年代））		地域交通 （成熟期（2040年代））	
パートナー	運航サービス 関連パートナー	顧客接点 あり	販売代理店				
		大規模施設保有者（観光・宿泊）	大規模施設保有者（観光・宿泊） ／既存交通事業者		大規模施設保有者（観光・宿泊）／既存交通事業者 ／オフィスビル保有者（企業拠点）／商業施設保有者／MaaSプラットフォーム		既存交通事業者／大規模住宅・団地保有者／商業施設保有者／自治体／MaaSプラットフォーム
		顧客接点 なし	機体メーカー／装備品メーカー／部品メーカー／MROベンダー（重整備）／保険会社／給電事業者／航空情報プロバイダー／航空交通管理システムベンダー／機体管理設備設計・建設事業者 ／広告代理店				
	Vポート運営 関連パートナー （Vポート運営事業者 含む）	顧客接点 なし	Vポート運営事業者／地権者／Vポート設計・建設事業者／設備ベンダー（充電設備）／給電事業者／運航管理システムベンダー／警備サービスプロバイダー／保険会社／広告代理店				
		顧客接点 あり	商業施設／交通機関／駐車場				
事業活動	コーポレート機能		企画／営業・マーケティング				
	オペレーション機能		整備（軽整備）／路線計画／旅客・グランドハンドリング／安全管理／運航／人材育成・訓練				
	－		－		運航（無人）／システムによる監視（遠隔操縦）		運航（無人）／システムによる監視（遠隔操縦）
必要資源	設備・インフラ		機体／Vポート（含 充電・機体管理設備）／通信設備／運航管理システム				
	－		－		機体（自動操縦）		機体（自動操縦）
	人的リソース		パイロット／整備士（軽整備）／運航管理担当者／旅客・グランドハンドリングスタッフ／安全管理担当者／営業・マーケティングスタッフ				
コスト構造	初期費（CAPEX）		機材調達費（購入費・リース料）／機体管理設備整備費／設備（充電等）設置費／各種システム導入費				
	運用費（OPEX）		重整備委託費（含 部品費）／人件費／保険料／運航施設利用費・地上サービス委託費／充電電気代／航空情報取得費／航行援助施設利用料／機体管理設備維持・管理費／乗員訓練費／販管費				
	－		－		自動操縦バックアップシステム／維持費		自動操縦バックアップシステム／維持費

各アウトプットの作成に際しては、サービス概要・コンセプト、及びビジネスモデルキャンバスを 想定ユースケース・サービス毎に、ステークホルダー関係図をユースケース・サービス横断的に作成

各アウトプットの概要・作成方針

サービス概要・コンセプト

ビジネスモデルキャンバス

ステークホルダー関係図

アウトプット
イメージ

概要・
作成方針



山梨県にて想定される有望ユースケース・サービスを
内容、想定ユーザー、提供価値等の観点から概要として
整理し、更に上記点を踏まえ、
利用者像・利用者イメージを具体化したもの



ビジネスモデルキャンバスのフレームワークに従い、
ビジネスモデルの構成要素をコスト関連要素
／収益関連要素に含まれる9つの構成要素から
具体化したもの



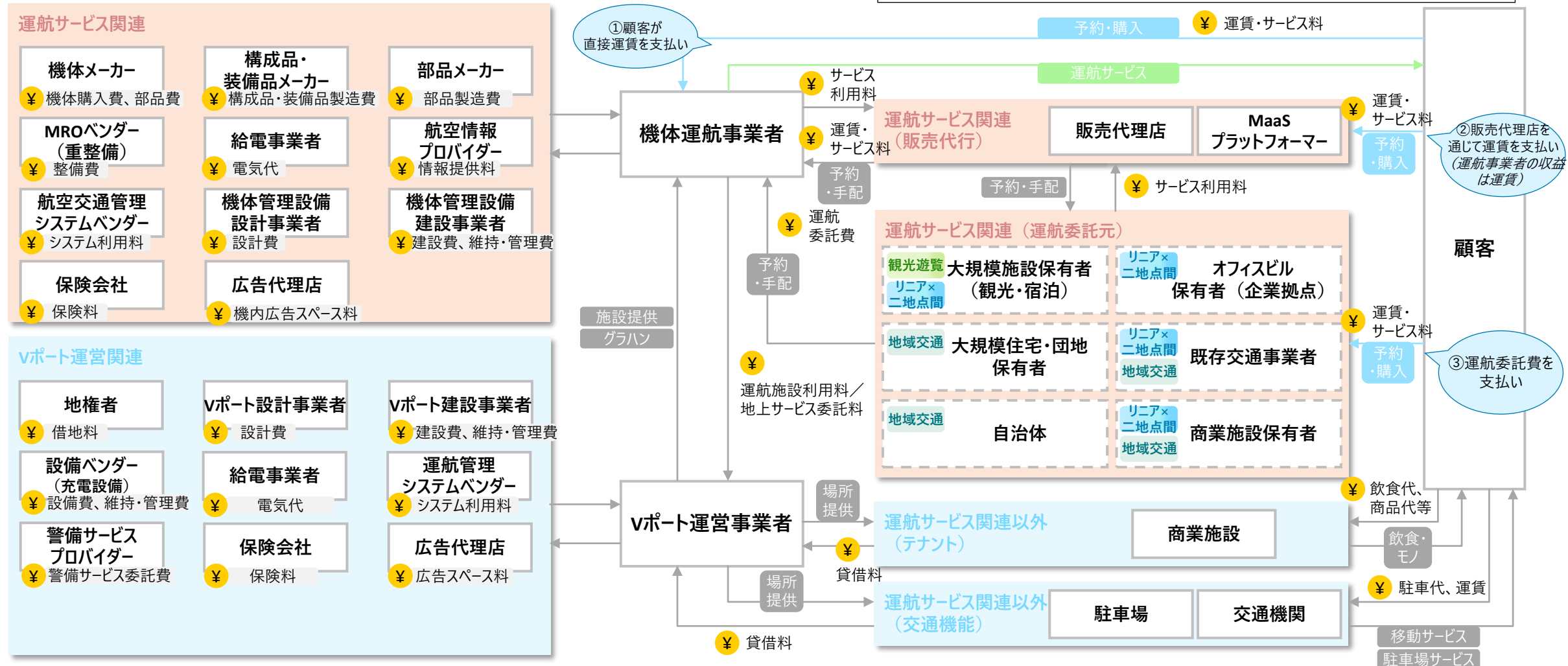
当該サービスを提供するに際して、関連する事業領域を
サービス・金の流れに基づき、運航事業者を中心に整理
したもの(併せて、各事業領域において県内の事業者
の参入余地の検討を実施)

想定ユースケース・サービス別に作成

想定ユースケース・サービス横断的に作成

運航サービス・Vポート運営に際して幅広いステークホルダーの関与が想定されるものの、特に顧客との接点を持つ領域は、想定サービス内容等によって特有のパートナーが必要になる想定

山梨県における想定ユースケースを踏まえたステークホルダー関係図



*1: 運航委託を行う場合においては、顧客の運賃負担あり/無し等の場合を想定

2. 本事業の結果

2.1 有望ルート

2.2 空飛ぶクルマを活用した事業モデル

▶ **2.3 令和7年度実証飛行の実施方針**

2.4 空の移動革命・社会実装推進ネットワークの企画・運営

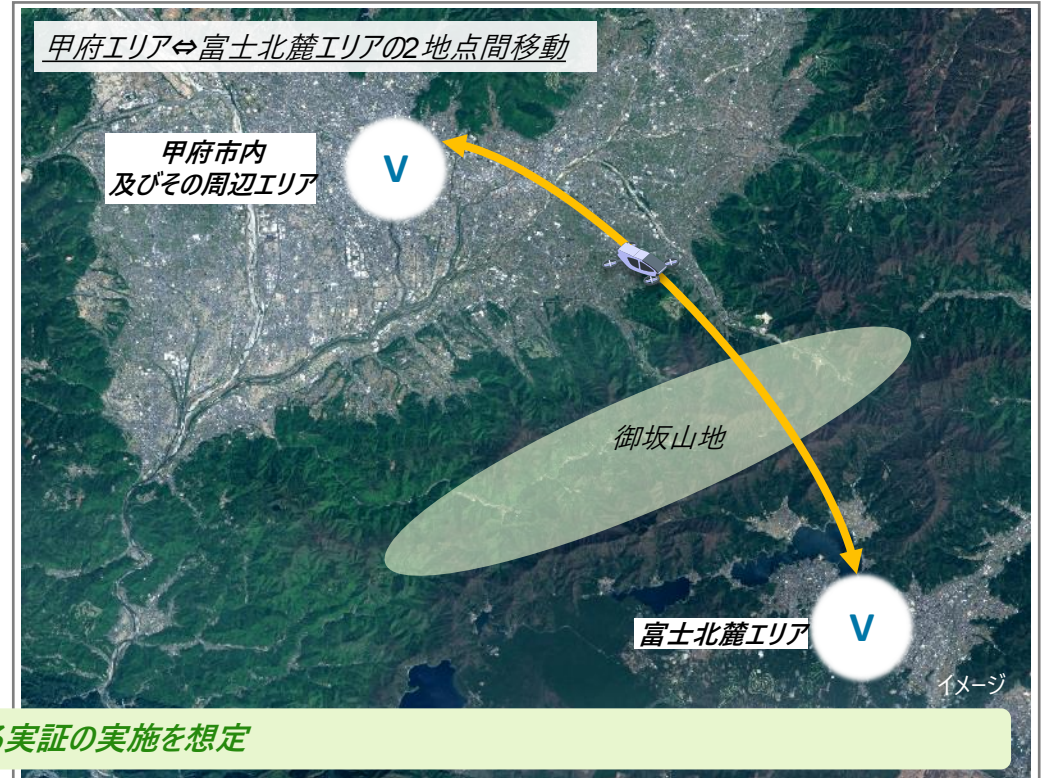
ビジネスの担い手の参画を促進し、空飛ぶクルマの県内での社会実装に繋げることを目的に、山梨県にて有望と想定される遊覧・二地点間移動を対象に実証実験を実施

令和7年度実証飛行の目的・実施に係る前提

R7年度 実証実験の目的

- R5年度・R6年度におけるこれまでの山梨県における調査・検討（山梨県におけるビジョンの策定、ビジョンを実現するための有望ルート等の調査、ビジネスモデルの検討等）を踏まえた、山梨県において有望と想定されるサービスコンセプト・（当該サービスコンセプトに基づく）ビジネスモデルの検証を行い、これらサービスがビジネスとして成立し得る（事業者にとって参入し得る市場である）ことを明確化し、山梨県におけるビジネスの担い手の参画を促進し、空飛ぶクルマの県内での社会実装に繋げること

R7年度 実証実験における 前提 （検証ルート）



当該2ルートにおける実証の実施を想定

令和7年度はヘリコプター、令和8年度は空飛ぶクルマを活用し、これまでに検討した県内で有望と想定されるサービスに基づくビジネスモデル（含 社会受容性）の検証実施を想定

令和7年度実証飛行の実施方針

利用機体

当該年度における実施事項（概観）

		実証計画の策定（事前準備）	実証実験の実施	実証実験結果の取り纏め
参考	令和7年度	ヘリコプター  実証実験に向けた計画の策定・（関係者の意見等踏まえた）精緻化を行うと共に、実証実験の目的を踏まえた検証観点・項目、及び連動する形でビジネスモデル（これまでに山梨県にて検討を実施）のブラッシュアップを行う	ヘリコプターを活用して、搭乗者（想定顧客）ありの状態、サービスコンセプトに基づく飛行（1日～数日間）を行い、予め定めた検証観点・項目に基づく必要データの収集を行う ＜具体的な検証観点（例）＞ - サービス受容性 - 価格受容性 - 収益性	実証実験にて取得したデータ等に基づき、データの分析を行い、検証項目に対する解を導出すると共に、次年度（空飛ぶクルマの実機の活用を想定）に向けた論点の洗い出し等次年度の実証実験に資する情報のとりまとめを行う
	令和8年度	空飛ぶクルマ  イメージ 実証実験に向けた計画を策定・（関係者の意見等踏まえた）精緻化を行うと共に、（前年度の実証実験の結果等も踏まえつつ）検証観点・項目、及び連動する形でビジネスモデル（これまでに山梨県にて検討を実施）の見直しを行う	空飛ぶクルマを活用して、搭乗者（想定顧客）ありの状態、サービスコンセプトに基づく飛行（1日～数日間）を行い、予め定めた検証観点・項目に基づく必要データの収集を行う（※） ＜具体的な検証観点（例）＞ - 社会受容性 - サービス受容性 - 価格受容性 - 収益性	実証実験にて取得したデータ等に基づき、データの分析を行い、検証項目に対する解を導出すると共に、以降の山梨県での社会実装に向けた課題・論点の洗い出し等を行い、事業者による事業参入の検討に資する情報のとりまとめを行う

出典：イラストのIMT. <https://illust-imt.jp/archives/000056/>（参照2025年1月16日）

（※）令和8年度においては、機体の開発状況等を踏まえ、実施内容は変動する想定

一般的に実証実験においては、ビジネス／オペレーションの両面から検証を行うことが想定されるものの、本実証においては、ビジネス面に着目した検証観点に基づく検証を行う

令和7年度の実証飛行における検証観点 (現時点想定実施方針に基づく一例)

検証観点	細部検証観点・論点	検証に際しての指標例	
ビジネス	サービス受容性	■ 県内において有望と想定するルートは適切か？ ■ 顧客は想定したサービス（県内における遊覧飛行／二地点間移動）を利用するか？	■ （既存交通と比した）所要時間削減率 ■ サービス満足度
	価格受容性	■ サービスの提供価格（実証実験における想定価格）は顧客に受け入れられるものか？	
	収益性	■ 実証実験でのコスト概算等に基づく実サービス提供に際しての必要コストはどの程度か？ ■ サービスの提供価格を踏まえた際に利益は得られる見込みか？	
社会受容性	■ 空の移動を提供するサービスは地域社会（離着陸場所の周辺住民・事業者等）に受け入れられるか？	■ 騒音値 ■ その他生活環境への影響の懸念	令和7年度・8年度共通的に検証の対象とすることを想定
オペレーション	安全性	■ 安全にサービス（機体の安全性／周辺環境への影響等含め）を提供可能か？	■ 不具合等発生率（機体故障等）
	業務実施可能性	■ （実証前想定に基づき）体制・リソース（人員・機材等）に不足はないか？ ■ 継続的な業務の実施は可能か？	

想定する実証の規模感等を踏まえ、検証の対象とする想定

検証手段



（顧客、スタッフ、県民等への）
アンケート調査・分析



（顧客、スタッフ、県民等への）
インタビュー調査・分析



（各種機材等から収集する）
データ調査・分析

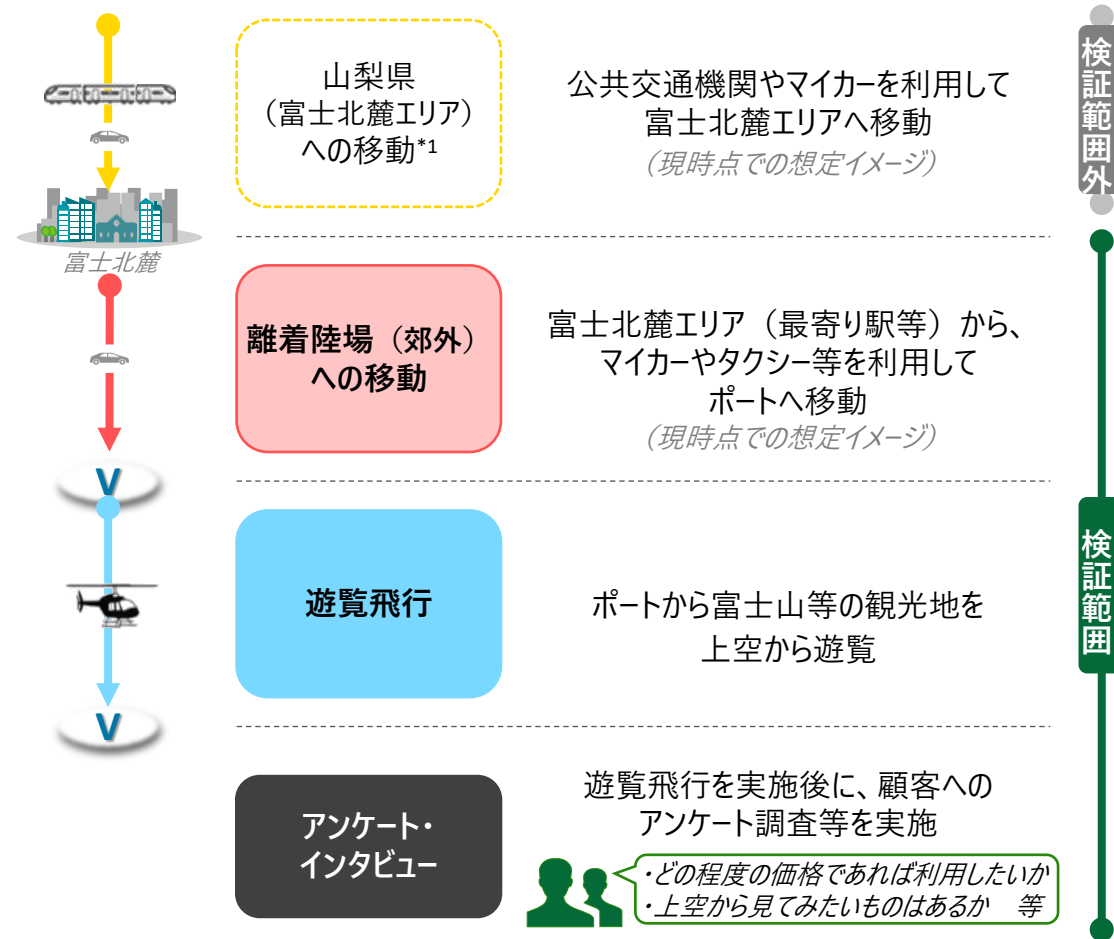
令和7年度はサービスコンセプトをベースに、県内における想定ビジネスモデルの精緻化に資するデータ収集・検証を念頭に、空の移動～地上交通との接続まで一連の検証を行う想定

令和7年度の実証飛行における実証シナリオ（観光遊覧）

当日の動きのルートイメージ



当日の動きイメージ（乗客目線）



出典：国土地理院. <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>（参照2025年3月11日）

*1：検証範囲外の乗客の移動については、想定イメージを記載。
今後、前後の移動も含めたパッケージツアーとして検証する場合においては、検証範囲が変更となる想定

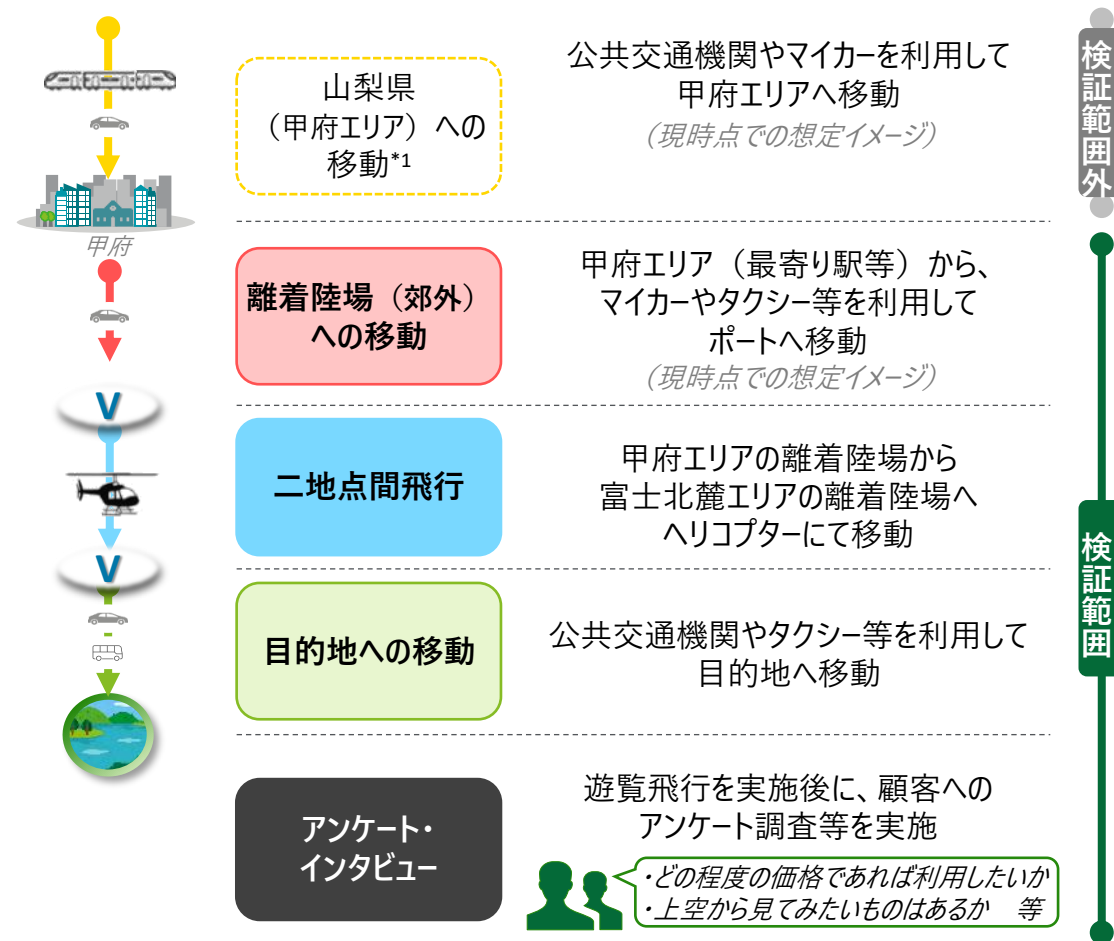
令和7年度はサービスコンセプトをベースに、県内における想定ビジネスモデルの精緻化に資するデータ収集・検証を念頭に、空の移動～地上交通との接続まで一連の検証を行う想定

令和7年度の実証飛行における実証シナリオ（二地点間飛行）

当日の動きのルートイメージ



当日の動きイメージ（乗客目線）



出典：国土地理院. <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>（参照2025年3月11日）

*1：検証範囲外の乗客の移動については、想定イメージを記載。

今後、前後の移動も含めたパッケージツアーとして検証する場合においては、検証範囲が変更となる想定

実証実験の実施に際しては、事業者単体での推進は困難な部分もあり、山梨県を中心に基礎自治体との調整等に際して連携することも必要になる認識

令和7年度実証飛行の実施体制・役割分担概要

令和7年度 令和8年度

<各プレイヤーの連携イメージ>



- 実証計画策定（シナリオの精緻化等）
- 実証に向けた事前準備（各種申請手続き等含む）
- 地元関係者（地元事業者・地域住民等）への事前説明会*1の開催
- 実証実験の実施・検証（実証に係る他事業者との連携含む）
- 実証実験結果の取り纏め

要連携

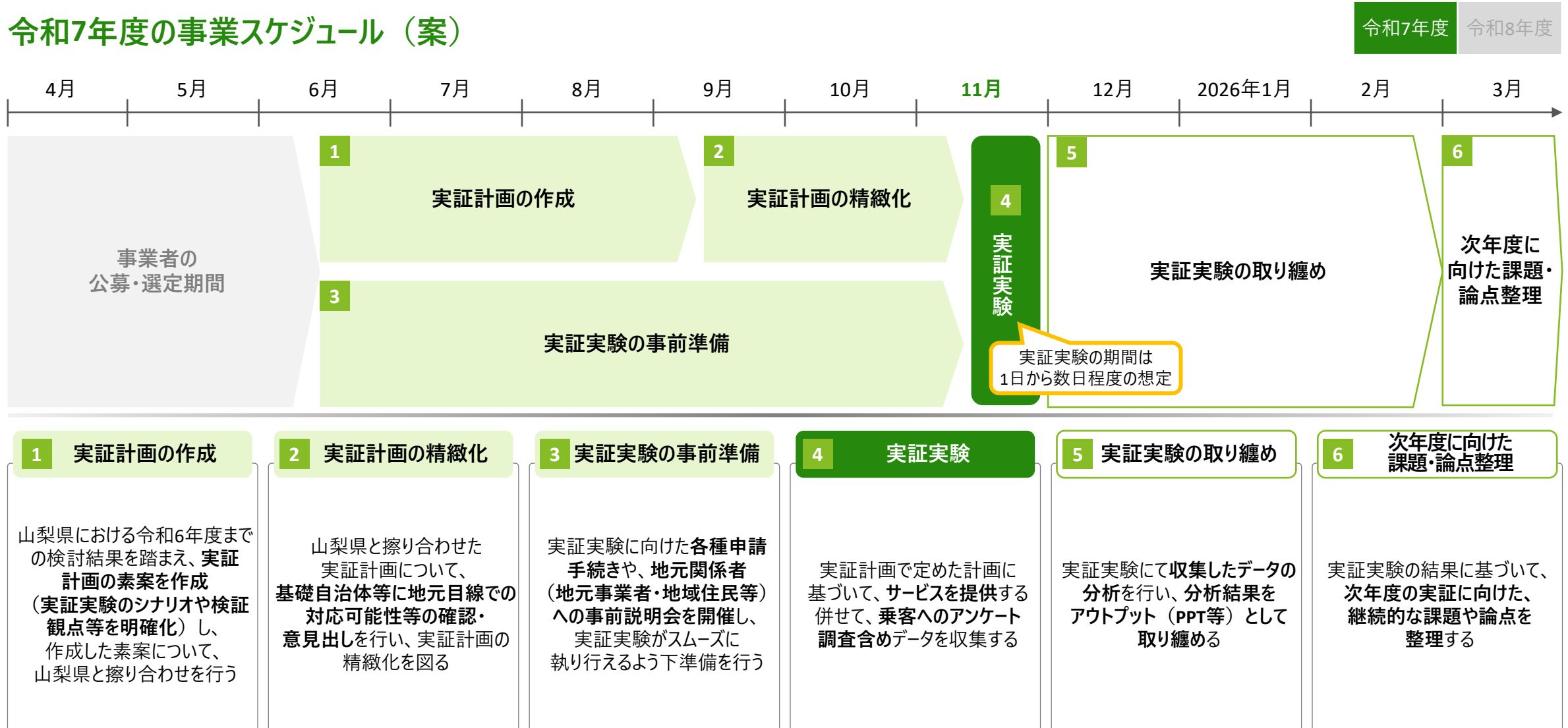
- 実証計画の策定（確認）
- 地元関係者との調整に係る基礎自治体への声掛け・調整支援
- 地元関係者への事前説明会*1対応 等

- 地域内における各種情報（離着陸場所の確保・申請等に係る土地情報等）の提供
- 地元関係者への事前説明会*1の調整・実施支援

*1：実施方法、及び開催の必要性等については、基礎自治体や地元関係者へ要確認

実証実験の実施時期について、秋頃（11月頃）の実施を想定。実証実験に向け、実証計画の具体化・精緻化から各種申請手続きなどを進めていく必要がある認識

令和7年度の事業スケジュール（案）



2. 本事業の結果

2.1 有望ルート

2.2 空飛ぶクルマを活用した事業モデル

2.3 令和7年度、令和8年度実証飛行の実施方針

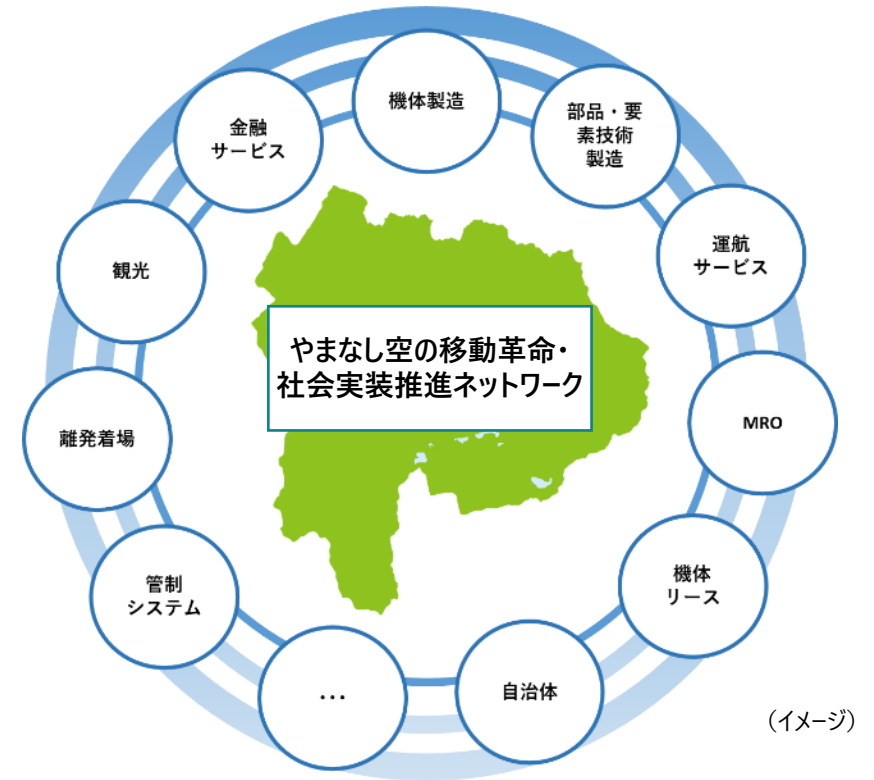
▶ **2.4 空の移動革命・社会実装推進ネットワークの企画・運営**

今年度は空飛ぶクルマの社会実装に向け、県が主体となり多様なステークホルダーを巻き込みながら理解促進・機運醸成・連携促進を目的として、推進ネットワークを計2回実施

やまなし空の移動革命・社会実装推進ネットワークの概要

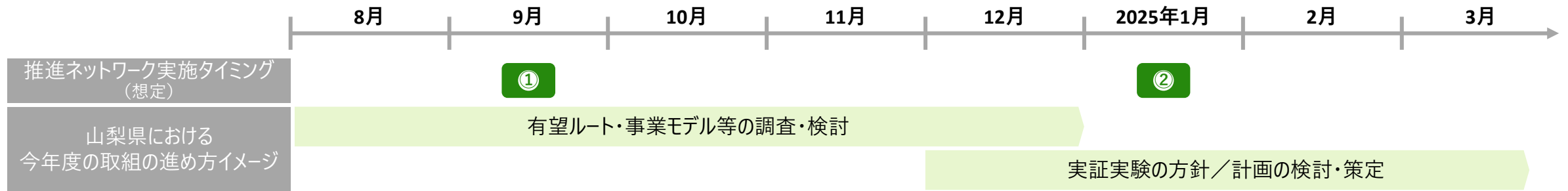
山梨県における空飛ぶクルマの円滑な社会実装の実現に向け、県内外の事業者・自治体等の理解促進・機運醸成・連携促進を目的とした取組

実施主体	■ 山梨県 知事政策局 リニア・次世代交通推進グループ (事務局：デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社)
実施内容	■ 空飛ぶクルマの社会実装に向けた勉強会や、取組状況の共有、及び各社の意見交換 等（後段にて詳細を記載）
スケジュール	■ 第一回：2024年9月10日 ■ 第二回：2025年1月10日
参加者	■ 県内外の多様な事業者、行政機関、及び大学
開催方式	■ 対面、及びオンライン（WEB）でのハイブリッド開催



今年度の推進ネットワークでは、山梨県の取組との連携を見据えながら、各回で勉強会や、ワークショップ、ネットワーキング等を実施

推進ネットワークの実施スケジュールと各回におけるアジェンダ



位置づけ・アジェンダ

①

立ち上げ・勉強会

■ 全体の進め方・運営方針の共有

- 推進ネットワークの目的
- 実施内容
- スケジュール 等

■ 勉強会（以下、タイトル）

- 空飛ぶクルマの時代
～万博後の新産業創出を目指して～
- 山梨県における空飛ぶクルマの社会実装に向けた
これまでの取組・成果

■ ネットワーキング

②

勉強会・ワークショップ

■ 勉強会（以下、タイトル）

- 空の利活用：川崎重工業（株）
- まちづくりと空飛ぶクルマ：（株）日建設計
- JR九州における「空飛ぶクルマ」事業の取り組み
：九州旅客鉄道（株）
- 山梨県における「空飛ぶクルマ」社会実装に向けた
今年度の取組状況の共有：山梨県

■ 意見交換会

■ ネットワーキング

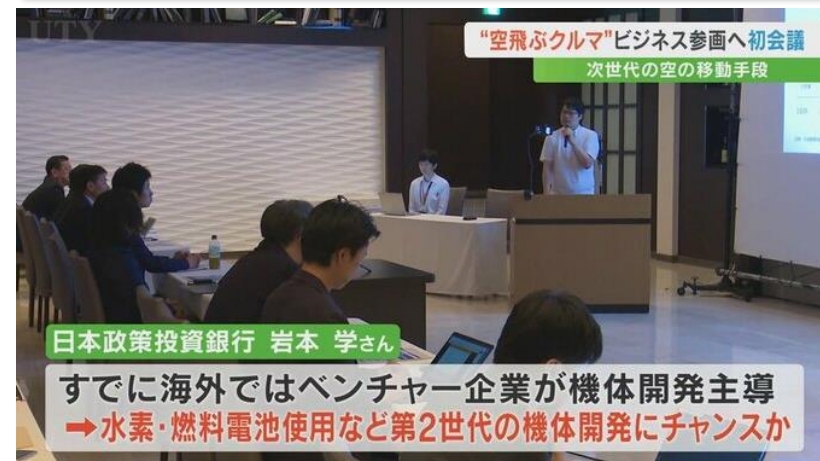
第一回推進ネットワークは最終的に対面参加者77名、WEB参加66アカウントを確認。 会議自体は、大きな問題なく完遂できた認識

第一回推進ネットワークの振り返り

実施概要

日時	■ 令和6年（2024年）9月10日（火）15:30～17:30
会場	■ ベルクラシック甲府
参加者	■ 対面参加：77名、WEB参加：67アカウント（重複含む） ※メディア参加者数について伺いたく
開催方式	■ 対面、及びオンライン（WEB）でのハイブリッド開催
実施内容	■ 副知事挨拶 ■ 来賓挨拶（経済産業省） ■ 推進ネットワークの進め方・運営方針の共有 ■ 勉強会 ✓ 空飛ぶクルマの時代 ～万博後の新産業創出を目指して～ ✓ 山梨県における空飛ぶクルマの社会実装に向けたこれまでの取組・成果 ■ ネットワーキング

当日の様子



出典：テレビ山梨公式HP「新しい地域づくりのきっかけに 空飛ぶクルマの社会実装へ 第一回会議を開催」 <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/uty/1418867?display=1>（参照2024年9月13日）

第二回推進ネットワークは最終的に対面参加者46名、WEB参加66アカウント、メディアを6社確認。会議自体は、大きな問題なく完遂できた認識

第二回推進ネットワークの振り返り

実施概要

日時	■ 令和7年（2025年）1月10日（金）14:00～16:30
会場	■ 山梨県立図書館
参加者	■ 対面参加：46名、WEB参加：66アカウント ■ メディア：6社
開催方式	■ 対面、及びオンライン（WEB）でのハイブリッド開催
実施内容	■ 主催者挨拶 ■ 勉強会 ✓ 空の利活用：川崎重工業（株） ✓ まちづくりと空飛ぶクルマ：（株）日建設計 ✓ JR九州における「空飛ぶクルマ」事業の取り組み：九州旅客鉄道（株） ✓ 山梨県における「空飛ぶクルマ」社会実装に向けた今年度の取組状況の共有：山梨県 ■ 意見交換会 ■ ネットワーキング

当日の様子



メディア掲載実績

「甲府と富士北麓エリアを結ぶルート検討 次世代の空の移動手段として注目の“空飛ぶクルマ” 社会実装目指す会議 山梨（テレビ山梨：2025年1月10日掲載）」

空飛ぶクルマは大阪・関西万博でデモフライトが予定されるなど次世代の空の移動手段として注目を集めています。県も社会実装に向けて動いています。

10日はビジネスへの参画を促す県の会議が甲府市で開催され、3つの会社と県がそれぞれ、県庁の取り組み状況を共有しました。

この取り組みや参画を促す県の会議は、空飛ぶクルマは道路や線路がないため、インフラ建設によるコストや環境負荷が低減するといったメリットを紹介しました。

また、JR九州は鉄道やバスなどの既存の交通と空飛ぶクルマを組み合わせたことで、点在する観光地の串刺しが解消になり観光の活性化につながる可能性があるなどと説明しました。

なお、県の担当者は県内での有型ルートとして甲府エリアと富士北麓エリアを結ぶルートを検討していると報告していました。

出典：テレビ山梨公式HP「甲府と富士北麓エリアを結ぶルート検討 次世代の空の移動手段として注目の“空飛ぶクルマ” 社会実装目指す会議 山梨」<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/uty/1660930?display=1>（参照2025年1月15日）

次回以降の開催に向け参加者へアンケート調査を実施。今年度の実施内容（時間・場所・コンテンツ）を継続しつつ、今後はVポート等をテーマに据えた勉強会等の実施も一案と思料

アンケート結果サマリ

設問項目		アンケート回答内容（サマリ）	
勉強会 	■ 勉強会で取り扱ってほしいテーマ	▶	Vポートに係るテーマや、最新動向（国内外）に係るテーマに関心が高いことを確認 - 具体的にはVポートに関連して、Vポート候補地（リニア山梨県駅周辺含む）／Vポート周辺のまちづくり／Vポートの設備（充電設備・消防設備等）／Vポートの設計・構造／等の意見を確認 - 最新動向としては、国外、国内（国・県含む）の動向／国・県による補助・支援内容／機体の開発状況（性能の詳細等）
コンテンツ 	■ （勉強会以外で）推進ネットワークにおいて扱ってほしい企画（選択肢（ネットワーキング・意見交換会・ワークショップ・県内視察・事業者との関係構築支援・その他）から2つ選択）	▶	事業者間の交流（ネットワーキングや関係構築支援）を求める声や、現地視察の実施を求めていることを確認 その他、意見として「試乗体験」を確認
会議時間 	■ 会議全体の所要時間（長い・適切・短い3択）	▶	会議時間としては9割の方が適切と回答しており妥当であることを確認 長い、短いの意見として、「一方で、質疑応答の時間が確保されていないという意見」も確認
開催場所 	■ 開催場所（甲府市内・県内各地・その他から選択）	▶	甲府エリアでの開催を要望することが一番多いものの、県内各地での開催要望も一定あることを確認 その他、意見として「リニア駅周辺での開催」を確認
対面参加のきっかけ 	■ 対面参加に繋がるための要素・きっかけ（選択肢（早い段階での会議案内・会場への行きやすさ・県内イベントとの合同開催、特になし、その他）から選択）	▶	対面参加につながるきっかけとして、早い段階での会議案内や会場への行きやすさを求める声を確認 その他、意見として「実機や具体的なシミュレーションを含めたプレゼンテーション」を確認

END OF DOCUMENT